

ふらかわ

No. 30

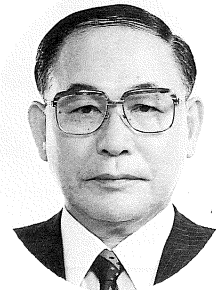
1991年(平成3年)12月



財団法人

鹿児島市動物公園協会

成人式を迎える平川動物公園



鹿児島市長 赤崎 義 則

平川動物公園は来年開園20周年で、人間にたとえますと、成人式を迎えるわけですが、この間、市民の皆さんはもとより広く県内外の多くの方々に、憩いの場として、また教育の場としてご利用いただきましたことに対し、心から感謝申し上げます。

昭和47年10月14日、これまで市街地にあった鴨池動物園が、自然環境に恵まれた現在地に移転し、新たに平川動物公園としてスタートいたしました。

雄大な桜島と錦江湾をバックに314,000平方メートルという広大な敷地の中で、動物たちはいつものびのびと生活しています。また、コアラやモモイロインコ、ウンピョウやレッサーパンダなど珍しい動物もオーストラリアや中国から仲間入りして、動物公園の内容を一段と充実させているとともに、国際交流の一環としても貢献していることは、誠に喜ばしい限りであります。その中で一番の人気者のコアラはすでに三世まで生まれ、現在、14頭と日本一の頭数を誇っています。

新しい動物の導入と並行して、動物舎など施設の整備も年次計画で進めてまいりましたが、とくに、今年の春オープンした「ふれあいランド」は、子供たちが直接小動物とふれあえることで、皆さんに大変ご好評をいただいております。さらに現在、サル舎の建設を進めており、お正月には新しいサル舎でサルをご覧いただけると思います。このほか、菖蒲園の新設や遊園地の整備などを行い子供からお年よりまで楽しめる動物公園として整備を図ってきております。

お陰様で、現在、約175種、1,350点の動物が飼育され、また、毎年60万人以上の入園者で賑わい、今では、西日本屈指の動物園に発展してまいりました。

来年の20周年を機に、さらに21世紀に向けて新しい感覚で内容の充実を図ってまいりますが、今後は、単にレクリエーションの場としてだけでなく、近年動物園に課せられた使命の一つである種の保存や自然環境保護の面にも十分配慮した整備を行ってまいりたいと存じますので、今後とも皆さんのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◀表紙

ショウジョウインコ Ceram Lory
オウム目 ヒインコ科

ハルマヘラ・ウエッダ諸島・モルッカ諸島東北部に分布。

全長300mm・翼長180mm・尾長113mm・インコとしては中型で、全身がもえるような赤紅色をしている。オスもメスも同じ色彩で見分けはむづかしい。欧州で利口な真似をするという評判が高いが、痛癢が強く、刺戟に鋭感である。日本でも古くから輸入されている。

▼行事

1992年1月2日～4日 お正月お年玉大会
3月中旬～4末日 春の動物公園まつり
5月3日～5日 こどもの日まつり

▼飼育動物数 (1991年11月現在)

ほ乳類	84種	653点
鳥類	83種	690点
は虫類	8種	11点
計	175種	1354点

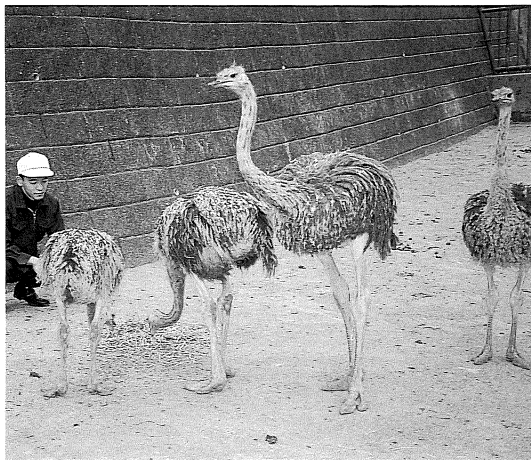
「ふれあいランド」のオープン



平成3年3月31日、子供たちが動物に乗る、さわる、抱く、などの直接体験をして動物に関心と理解を深める目的で、「ふれあいランド」がオープンしました。

動物公園ニュース

動物の赤ちゃん



ダチョウ (3・5~6生)



ロバ (3・7・8生)

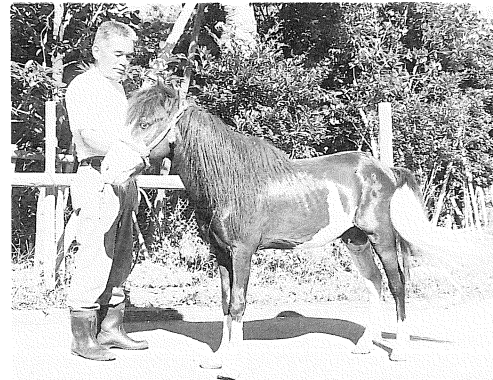


マーラ (3・9・17生)



レア (3・11生)

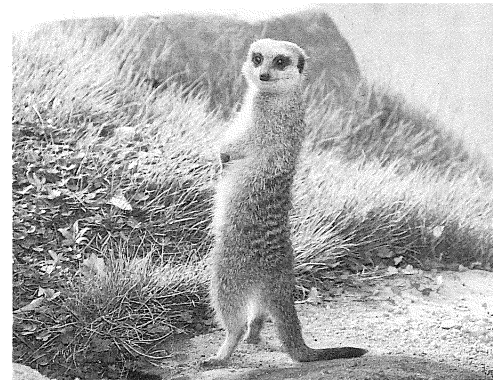
新しく仲間入り



シェットランドポニー 2頭
(2・12・21) 購入



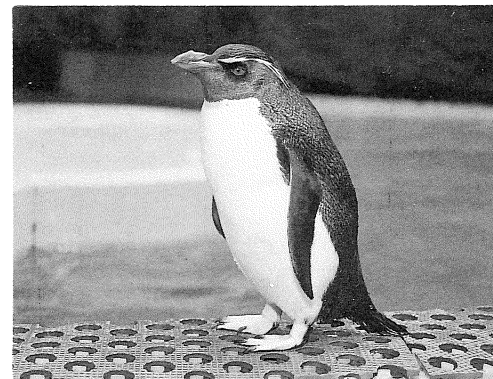
ミケリス 4頭
(3・1・18) 交換



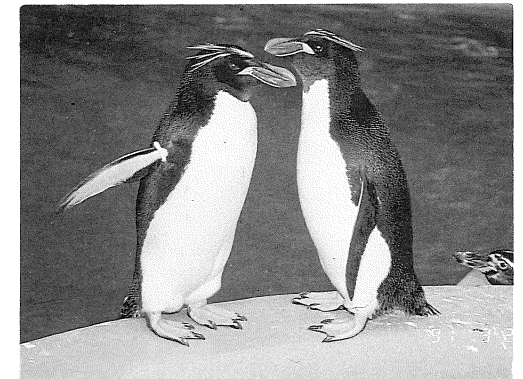
ミーアキャット 14頭
(3・1・13) 購入



コツメカワウソ 2頭
(3・3・25) 購入

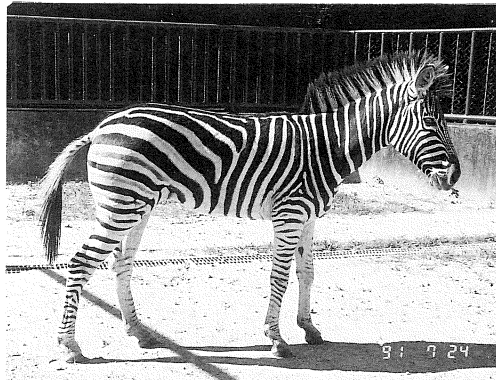


イワトビペンギン 3羽
(3・3・25) 購入



マカロニペンギン 4羽
(3・3・25) 購入

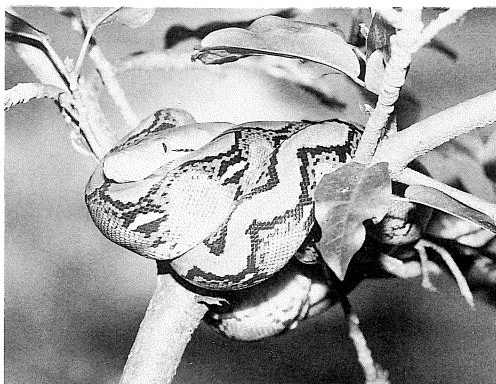
ハイ！担当は私です



チャップマンシマウマ 4頭
(3・3・26) 購入



フタユビナマケモノ 2頭
(3・3・28) 購入



アミメニシキヘビ 3頭
(3・5・28)
沖縄こどもの国から寄贈



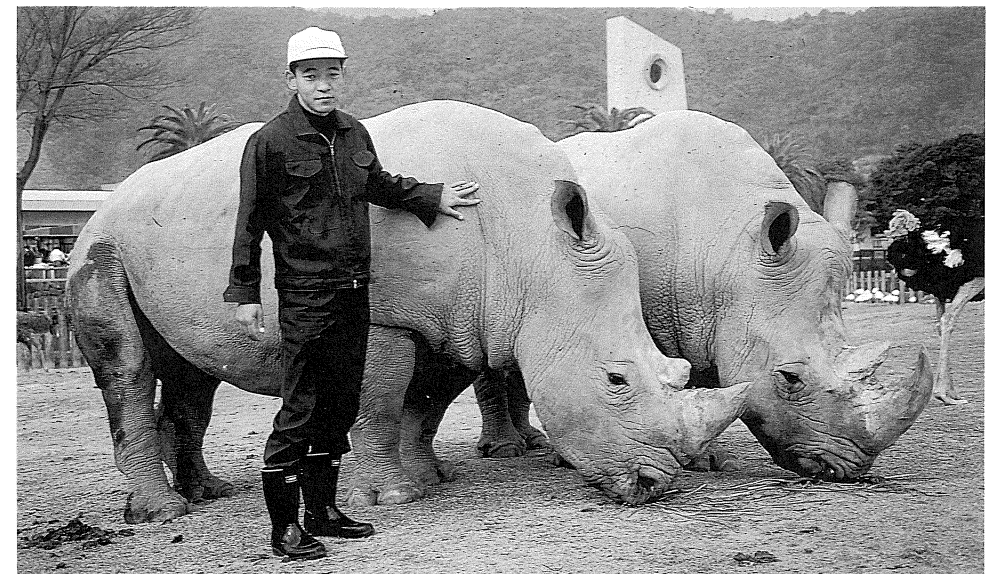
ソウシチョウ 106羽
(3・6・29) 交換



シマリス 130頭
(3・6・30) 交換



ショウジョウインコ 10羽
(3・9・26) 購入



▲シロサイ

広々としたアフリカ園に放し飼いになっているシロサイ、ダチョウ、カンムリヅル、アフリカハゲコウ、エジプトガンなどを担当しています。飼育係になって5年になります。これまでダチョウの繁殖に力を入れており、今年も20羽のヒナが誕生しました。

発情期、繁殖期の餌、ヒナの餌や保温などに気をくばりながら飼育しています。今後は貴重になったシロサイやアフリカハゲコウなどの繁殖に向け努力したいと思っています。

技師 上別府 秀人

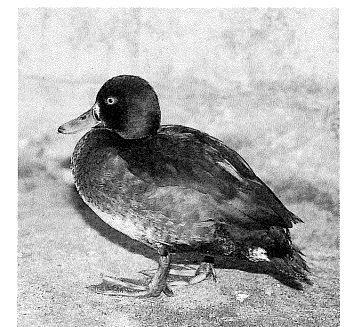
・野生動物の保護・



ニホンザル (3・9・2)
曾於郡輝北町



セグロアジサシ (3・8・23)
宮崎県小林市



スズガモ (3・11・4)
加世田市

行事



◀コアラといっしょに
写真を撮ろう

国内では初めての試みで、大ぜい
のお客さんに喜ばれました。

(春と秋の動物公園まつり)
で計3回実施



▲一日園長 (3・9・23)

皇徳寺小6年 堀田純子さんが
動物慰霊祭で弔辞。



▲動物にさわって遊ぼう

(3・5・5)
(3・10・6)



▲サマースクール (3・8・23~24)

参加 101名
今年はロンドンの小学生2名も参加
しました。



▲巣箱づくり教室 (親子)

(3・9・22)

参加 12組 25名

園芸教室 ▶

(3・6・2) 花しょうぶ祭り

「花しょうぶの育て方と園芸相談」

指導 瀬戸正徳さん



◀写真コンテスト

(3・6・9) 花しょうぶ祭り

「花しょうぶ撮影会」

プレゼント



▲ホッキョクグマに差し入れ

(3・7・26~8・31)

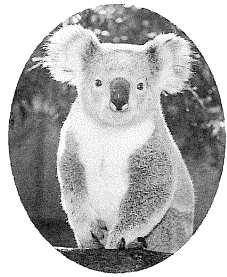
氷で夏を乗り切れと、市内の製菓業者
と鮮魚店からプレゼントがあり、ホッ
キョクグマの「ユキ」は大喜び。

新らしくなった遊園地施設



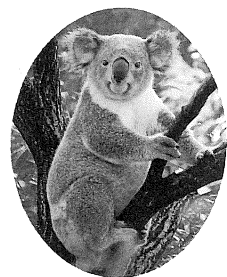
▲メリー・ゴーランド

新型になり、3年4月から運転を
はじめました。



「フウタ」君

コアラの交換



「ダイ」ちゃん

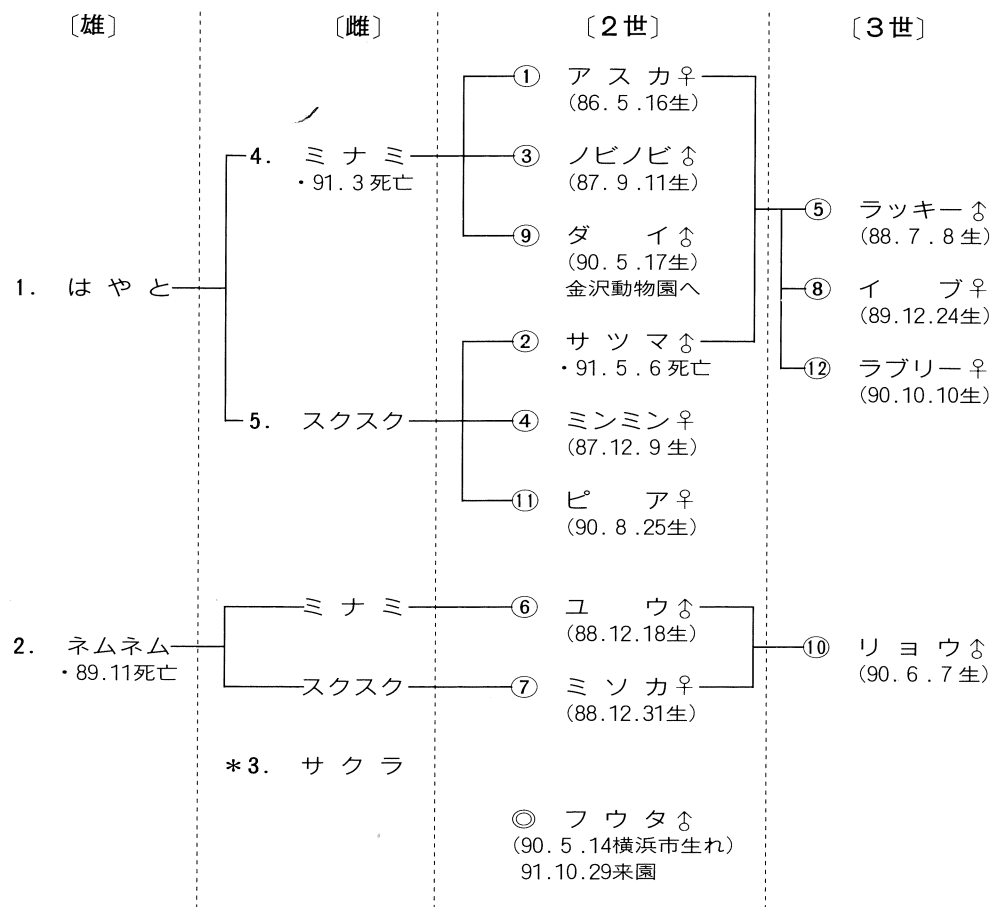
コアラが来園して7年が経過しました。これまでに12頭の子供が生まれましたが、今後種の保存を図る上で近親交配による弊害が心配ですので、血液更新を図るため横浜市金沢動物園とコアラの交換を行いました。

1991年10月28日、当園から雄の「ダイ」ちゃんが横浜市金沢動物園に旅立ちました。そして翌日の10月29日は金沢動物園から雄の「フウタ」君がやって来ました。

1日も早く「フウタ」君の子供が生まれるよう願っています。

コアラの系統図

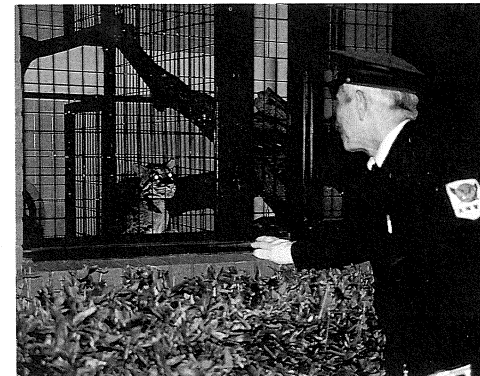
1991.12.1 現在



※オーストラリアから来た雌の「ミナミ」が3月6日、急性肺炎のため死亡しました。また、2世の「サツマ」が5月6日、舌潰瘍で死亡しました。ともに当園のコアラ繁殖に大きく貢献していただいただけに残念です。冥福を祈ります。

夜の動物公園

太陽警備 鮫島 透



私は動物公園の夜間警備を担当しています。勤務は、16時30分から翌朝の8時30分まで、巡回は17時、21時、1時、5時の4回歩いて行きます。仕事の内容は、カギの確認、水道、ガス、空調機、ボイラー、フ卵機、売店、遊具、ゲームセンター、自動販売機などの点検及びコアラ舎の室温・湿度や水位計の記録などが主です。特別な指示のあったときは、そのことに重点をおきます。

夜間警備では、1回目(17時)の巡回でその日の園内の状況を把握できます。カギの確認も、事務所、門扉、動物舎、食堂など建物施設だけで130ヶ所を超えます。水の出し放しや漏水の有無なども確認します。

いよいよ冬に入ってボイラーも一部火入れしてあり、寒がりの動物たちが無事に越冬できるようボイラーの点検には特に注意しています。

フ卵機は年間フル運転で、ヒナの誕生に出会うと本当に楽しくなります。異状があればただちに管理住宅(動物公園)の職員や担当の職員に連絡します。巡回は1回目は約2時間かかりますが、2回目からは約1時間で終わります。

動物園の夜警と云えば、ほとんどの人が夜はどうですか、恐くないか、淋しくないかと尋ねます。私は夜は昼が暗くなっただけで、大勢の動物がいるから大変賑やかだと答えています。毎晩歩く距離は15キロに達すると思われませんが、歩くことには自信があり健康維持にも役立っています。動物公園の夜警は、みんなが敬遠し長続きしないと云います。私は引き受けたからには1年間だけはやってみせると心に決めて仕事につきましたが、いつの間にか満4年になろうとしています。この広い敷地とたくさんの建物や施設、それにいろんな動物が居

平川動物公園のあゆみ

(開園10周年からコアラを迎えるまで)

川 畑 純 徳

るところを夜1人で16時間も勤務することを考えるとわれながらよく頑張ってくれたなあと思います。私は元来動物好きで、好奇心も強く、常に動物について新しい発見を求めています。それと趣味の域には達しませんが、俳句・川柳の駄作に凝り、星座探しに興味があり又植木盆栽も少々手がけて居りますので、園内の四季の移り変わりが楽しみです。夜の動物公園を広く皆さんにお見せ出来ないのは本当に残念です。特に夜桜の頃は1人ではもったいなく何回も行きつ戻りつします。雨の夜の水銀灯に照らされる花菖蒲園など立ち去り難い風情です。夏には蛍の舞うのもみられ、季節毎に野鳥の訪れもあり、夜の動物の寝姿や鳴き声など興味つきないことばかりです。

「鹿の瞳に青空見たり秋深し」

動物の澄んだ瞳には魅せられます。また目の輝きを見れば健康状態も判る様な気がします。

「白鳥により添ひ眠る池の月」

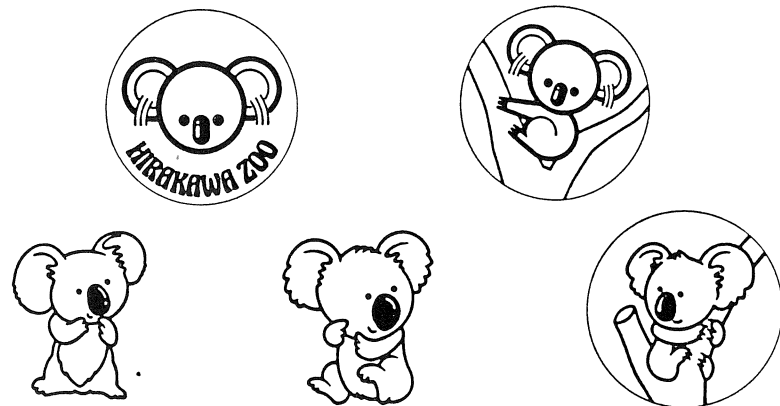
「役得か夜警は月を一人占め」

巡回中は異様な物音・鳴き声に注意するため、ときどき立ち止ったり腰掛けたりします。動物に語りかけたり、駄作の句作りは緊張緩和にもなっています。

しかし、いつも悠然とばかりはゆきません。特に台風は一番気苦労です。それこそ不眠不休の夜となります。たくさんの動物のなかには、病気やケガなどで看護の甲斐なく死ぬものもあり、本当に淋しい思いをすることもあります。反面出産やヒナや仔の成長が見られる楽しみもあります。

巡回のとき以外は、電話の対応、忘れものの受渡し、出入者及び車輛のチェックなどがあります。12月中旬には、巡回数も通算して5,000回に達します。今夜も星座を探しながら動物に語りかけて歩きます。

(平成3.11.30)



昭和57年10月31日 前日に鹿児島市と友好都市締結という大役を終えた、熊清泉市長を団長とする長沙市友好代表団(7人)が来園。人気ものオランウータンの公平君が出迎え、折から開園10周年記念秋の動物公園まつりで賑わう園内を子供たちに囲まれ、ニコニコしながら見学して友好を深めた。

12月5日 オーストラリア・クインズランド州政府野生動物保護局次長のレバリー氏が来園。日本でコアラ飼育が可能かどうかを調べる目的で来日。コアラ誘致に名乗りをあげた、東京都・埼玉県・横浜市・名古屋市・兵庫県・大阪市・鹿児島市などの7つの動物園を視察した。

現地政府関係者の視察は始めてのことで、首長が出席して歓迎会を行なった2、3の自治体もあり、それぞれコアラ誘致の熱意を売り込んだ。鹿児島では、「コアラを連れてくる会」にはじまる誘致運動の経緯やユーカリの確保計画などについて説明。結果は同州の首相に報告された。

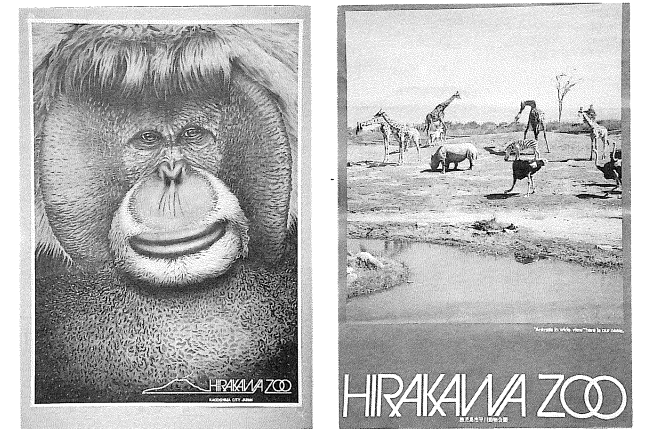
昭和58年1月5日 リュウキュウイノシシのつがいが奄美大島から到着。飼育のきっかけは、上野動物園長からの要望で同園長がオランダに出掛けた際、国際自然保護連合の種保存委員会・イノシシ担当議長、ウィリアム・オリバーさんから「リュウキュウイノシシはとても原始的な種類。日本で保護して欲しい」と頼まれ、生息地(琉球諸島)に近い鹿児島で保護増殖にあたることになった。

1月21日 前年8月、オーストラリアに派遣した職員が持ち帰ったコアラの食べるユーカリの種子(9種類)を県林業試験場に播種・育苗してもらうよう依頼した。

2月14日 ヒクイドリ3匹が神戸市王子動物園から、また

2月16日 宮崎サファリパーク(昭和61年閉園)から、ライオンのルナ(オス)ミク(メス)の若いひとつがいが贈られた。

2月24日 東京で行われた「第1回日中渡り鳥保護会議」に出席のため来日していた、中国鳥類専門家の一行(李貴令・林業部森林保護司付司長ら5人)が環境庁・山階鳥類研究所の



開園10周年記念ポスター

職員とともに視察に訪れた。当園が全国で唯一天然記念物ルリカケスの飼育、繁殖に成功。また、特別天然記念物・ナベヅルの繁殖にも全国で初めて成功したことなどから、見学を希望したもの。園内見学ののち、こども動物図書館において、ルリカケス・ナベヅルの繁殖の経過をスライドと8ミリで観察、意見の交換を行なった。24日、県知事、25日・市長主催のレセプションが開かれた。一行は中国のツル類の文献を寄贈している。また、3月1日には中国の天津動物園長ら天津市友好団一行5人が来園した。天津市は神戸市の友好都市で、神戸市にレッサーパンダなどを贈るため来日していたが、神戸市の推せんで当園を見学に訪れた。

3月14日 春の動物公園まつりの催物のひとつ「野鳥観察会」が開かれた。当園の初企画で、日本野鳥の会鹿児島県支部の会員の指導で園内を一周しながら、野鳥を探した。参加者は30名。

3月23日 東京で環境庁特定鳥獣保護増殖検討会が開かれて、園長が出席。鹿児島が担当していた「ルリカケス」の繁殖状況について発表した。

4月1日 日本では珍しい、南米産の「カニクイギツネ」1匹と北極圏にすむ「ホッキョクギツネ」のつがいを、市内の篤志家から寄贈を受ける。

4月11日 MBCの国分支局のO氏から「陸上自衛隊の国分駐屯地には、ユーカリの20年生のものが多数ある。同隊では、このユーカリがコアラの食べる種類であれば協力してもよいと云っている」という願ってもない情報を得た。(このユーカリは、コアラの誘致前の試食テストでオーストラリアにも送られ、誘致後も貴重なエサとなっている。)

4月20日 オーストラリア・クィンズランド州のロックハンプトン市立植物園のワイヤット園長が、同市と姉妹都市である指宿市を訪れたあと来園。ユーカリの植栽について詳しく指導をうけた。

4月25日 ローンパインコアラ保護区、ローバトソン園長ら2人が来園。園で用意したコアラ舎の完成予想図やユーカリを植栽する予定地図を囲み検討。熱心なアドバイスをした。またコアラの誘致には連邦政府の理解をとりつけることが最大のポイントであることを示唆した。

5月10日 インドクジャクの血液更新のため、磯庭園から10羽の寄贈を受ける。

5月27日 高松市で開かれた日本動物園水族館協会総会において、ナベヅル(昭57年6月生)が繁殖賞を贈られた。

9月25日 ヒマラヤグマの「サチコ」(29才)を長寿日本で表彰。「サチコ」は昭和30年タイの篤志家から鴨池動物園に贈られたヒマラヤグマである。(平成2.12.19.老衰死)

10月3日 名古屋市を訪問したオーストラリア・ニューサウスウェルズ州のラン首相は名古屋市長に、時期は明言しなかったが、「シドニー動物園と同州野生動物局から、両市民の友好のしるしとしてコアラのつがいを贈る」と表明した。このニュースは、名古屋市より早くから誘致のためユーカリの植栽など準備をしていた鹿児島市にとってシ



ックであった。名古屋市は昭和55年シドニー市と姉妹都市の盟約を結び、ユーカリの種子をもらったり、代表団を派遣したり、両市の交流を深めて政治的に働きかけた結果で、オーストラリア連邦政府の輸出許可など問題はあがるが一応コアラ寄贈の約束をとりつけた。一方鹿児島市は姉妹都市のパス市を通じて誘致を働きかけていたが、パス市のある西オーストラリアにコアラは生息していないし、コアラ誘致の対称になる都市を絞っていなかった。コアラの生息しているオーストラリア東海岸のシドニー市と交流のある名古屋市は、鹿児島市に比べて有利な状況にあった。コアラ名古屋へのニュースは同日の鹿児島市議会本会議で取り上げられ、市長は、11月に日高助役を現地に派遣することやコアラ担当官を置くなど、コアラ誘致に本格的に取り組む意向を示した。

10月4日 名古屋に次いで、東京都を訪れたラン首相は、ユーカリの確保を条件に、コアラを贈ると約束している。

10月11日 県林業試験場で育てた9種類、約8,200本のユーカリを平川動物公園と隣接した錦江湾公園の一角(約26,000㎡)に定植した。これで12種類、約13,000本のユーカリが揃い、誘致に向かって一歩前進した。

表1 オーストラリア政府指定のユーカリと鹿児島島の植栽状況

※1から4の各グループから最低1種類ずつ準備することが義務づけられている

グループ	品 種	鹿児島島に植栽されているもの
1	E. viminalis	ビミナリス 成樹※ 2,000本(1982年定植) 幼樹70本(1983年定植)
	E. obliqua	オブリカ
	E. ovata	オバータ
	E. globulus	グロブルス ※ 100本(1978年)
2	E. rudis	ルーデス ※ 150本(1978年) 70本(1983年)
	◎E. tereticornis	テレチコルニス ※ 150本(樹令20年) 1,700本(1983年)
	E. camaldulensis	カマルドレンシス ※ 1,100本(1978年)
	E. blakelyi	ブラックリー
3	E. punctata	ブンクタータ 1,230本(1983年)
	◎E. propinqua	プロピンカ 1,330本(1983年)
	E. pilularis	ピルラリス
4	E. paniculata	パニキュラータ
	E. sideroxylon	ジデロキシロン
	E. melliodora	メリオドーラ
	E. haemastoma	ハエマストーマ
	OE. saligna	サリグナ 1,250本(1983年)
	E. robusta	ロブスター ※ 400本(樹令15年) 300本(1983年)
その他	E. goniocalyx	ゴニオカリックス
	E. botryoides	ボトリオイデス ※ 700本(1978年)
	OE. moluccana	モルカーナ 1,300本(1983年)
	OE. microcorys	マイクロコリス 950本(1983年)
	OE. maculata	マクラータ

◎ローンパインコアラ園で与えている主要なもの
○ 従的なもの ※試食テストを行った種類

10月12日 コアラ誘致事務担当官2名を任命、誘致態勢が強化された。

10月14日 鹿児島市コアラ誘致推進会議が発足。会長は日高助役、委員は、建設局長、都市計画部長、建設局庶務課長、緑化推進課長、平川動物公園長で組織。これから頻りに会議が開かれ、コアラ誘致に積極的な活動が始まる。会議では昭和57年8月、鹿児島市がオーストラリアに派遣した、鹿児島大学農学部の寺下隆喜代教授の報告にもとづき、コアラの誘致先は、オーストラリアで最も多くコアラが生息し、しかも100頭近いコアラを飼育しているローンパインコアラ園のあるクインズランド州に交渉の的を絞ることに決定。

10月21日 クインズランド州政府東京事務所を訪れた日高助役らは、同州のピーターセン首相あてに「コアラ誘致に関する申請書」を提出し、正式にコアラ誘致を表明した。また同時に駐日オーストラリア大使に対して市長のメッセージを渡している。

11月12日 コアラ誘致運動のため、日高助役一行が、オーストラリアに向い、クインズランド州を訪問し、コアラ誘致の要請を行なった。これに対して、ピーターセン首相は理解を示し、受け入れ条件の整備を前提になるべく早く要請にこたえたいと約束、その条件として①冷暖房設備のととのったコアラ舎の建設 ②獣医と飼育担当者の現地研修 ③飼料となるユーカリの育成と確保。以上3つの条件があげられた。

このオーストラリアの訪問で、マスコミを賑わしたコアラの一番乗り競争は、名古屋・東京と並んで鹿児島も同じラインにつき、長年の夢であったコアラ誘致はいよいよ現実のものになってきた。

同じころコアラ誘致にむけて県民運動を盛りあげていこうと、民間団体ではポスター2,000枚を作成して金融機関・保育園・幼稚園などに贈るなど、いろんな企画があり、民間レベルの運動も活発であった。動物園協会ではコアラをデザインしたバッジを作成している。

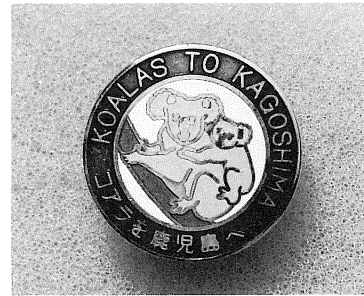
11月13日 「ショウガラゴ」2つがいと「バーバリシープ」3頭が仲間入り。いずれもアフリカ産で、県内で初めてのお目見えであった。

12月6日 長沙市友好訪問考査団(団長・王志強・副市長)一行が来園。動物交換について話し合いを行なった。鹿児島からマントヒヒとシカを、長沙市からはシカ・ワシ・ウンピョウなどを挙げた。鹿児島市が要望していたパンダについては難色を示し「パンダ展ができるよう努力したい」と述べた。

12月17日 コアラ舎の建築設計について、設計を担当する市の建築課と打合せに入る。コアラ舎の建設にあたっては、オーストラリア連邦政府の定める6項目の条件をみたすことが義務づけられていた。設計に万全を期するため、コアラ飼育の経験豊富なアメリカのロスアンゼルスやサンジェゴの動物園に職員を派遣しようという話もあったが実現をみなかった。しかしクインズランド州の専門家と十分な意見の交換のうえ設計している。

12月27日 「ベニイロフラミンゴ」3つがい、「ロバ」1つがい、「プレリードッグ」5つがいを購入した。

昭和59年1月10日 熊本動物園から「シベリアオオカミ」1つがい、「ファロージカ」1つ



コアラバッジ

がい動物交換によって仲間入りした。また16日、血液更新の目的で交換した「グランドシマウマ1頭(メス)が九州アフリカ・ライオン・サファリから到着している。

1月29日 レバリー次長・ロバートソン園長が来園。平川動物公園・鹿児島経済大学などのユーカリの生育状況を視察した結果、量も十分であると認められた。またクインズランド州政府では、コアラをできるだけ早く鹿児島に出したい意向があったが、同州政府が希望する時期にはコアラ舎の完成には工期が無理であり、その対応としてレストハウス(コアラの仮獣舎)の建設を急ぐ必要があった。その建築について打合せを行ない、また市建築課の設計したコアラ舎の図面については、細い部分の指摘をうけた。

2月にはいると、鹿児島で育てたユーカリをコアラが食べるかどうかを試すため、ローンパインコアラ園へ空輸した。ユーカリ(7種類)を1.5~2メートルの長さに整え、切口を水に浸した綿花で包み、ビニールで水もれ防止をして、ダンボール箱に収納して送った(重さ約20キロ)。試食の結果いづれも良く食べたという報告に関係者一同ホッとした。(4月まで5回の空輸を実施した。)

2月23日 市議会建設消防委員会で、コアラ舎の概要について説明している。コアラ舎は総工費1億3,600万円、鉄骨鉄筋コンクリート造り平屋建(約600㎡)の屋内施設と、鉄骨平屋造り屋外飼育場(350㎡)からなっていて、冷暖房完備の施設として提案された。

3月1日 獣医師2名が、オーストラリア・クインズランド州に出発。同州のローンパインコアラ園などで、現地研修(3月から4月上旬)に入る。

3月5日 現地研修中の獣医師から、出発時に送った鹿児島のユーカリをコアラがよく食べたことや、現地ではコアラの日本への輸出が近いと緊張が感じられ、4月17日になるのではという感触などが伝えられた。

3月12日 コアラ舎の建設工事が始まる。この工事は8月末の完成予定であったので、コアラ誘致が早まった場合は間に合わないことになる。そこでクインズランド州政府の意向もあって極秘のうちに、園内の芝生広場の一角に、冷暖房つきのレストハウス(仮のコアラ舎)がこのころは完成(木造平家建 約30㎡、工費750万円)。対外的には、動物の休養施設であると説明していた。このレストハウスについては、地方紙などは、うすうす情報をキャッチしていたふしがあったが、日本ではじめてのコアラ誘致が鹿児島で成功するか否かという微妙な段階にあったのを考慮してか、取材がなかったので園側も助かっていた。

3月14日 中国訪問の途中来日した、クインズランド州のピーターセン首相と東京のホテルで会見した日高助役は「連邦政府の最終判断を待つ以外にないが、クインズランド州政府としては一刻も早く送りたい機運になっている」と明るい見通しを発表している。

3月15日 レストハウスの取材に訪れた地元のテレビ局の記者は、コアラの仮獣舎ではないかと相当突っ込んできた。そして当日「4月中にも日本で初めて鹿児島にコアラがくる。そのために平川動物公園に仮獣舎も完成した」と報道、レストハウスも画面に映し出された。このスクープに追隨した各紙は「コアラが全国に先がけ、早ければ4月中にも鹿児島にお目見えすることになる」と一せいに報じた、コアラ誘致の約束を全国でもっとも早く決めた名古屋市や東京都より鹿児島が先になるというのでマスコミを賑わした。しかし鹿児島ではこの報道によって日本国内の誘致の競争が激しくなり、クインズランド州に対するオーストラ

リア連邦政府のコアラ輸出許可に影響を与えるのではないかと憂慮された。

3月22日 クィンズランド州から「コアラは4月18日鹿児島着の見通しで、雄2頭を送る。州政府は連邦政府に輸出許可申請書を提出済みである」という連絡を受けていた。しかし鹿児島市側は連邦政府の認可が正式に下りていないため、慎重を期して詳しい日程などは明らかにしなかった。

3月25日 ローンパインコアラ園のロバートソン園長が、おしのびでレストハウス（コアラの仮獣舎）を視察にきている。この頃になると地元紙がコアラの歌を募集をはじめたり、民間のテレビ局もコアラ現地取材を実施するなど、コアラ歓迎のムードが盛上ってきた。

3月27日 市内の小・中学生の代表7人が作文で「コアラを早く送って下さい」と連邦政府ホーク首相やクィンズランド州のピーターセン首相に訴えている。



ソデグロヅル「ポーヤン」君

3月29日 昭和52年にアメリカ・ウィスコンシン州の国際ツル財団に繁殖のため貸し出されたソデグロヅルの2世「ポーヤン」君が里帰りした。園児や小学生のブラスバンドと一緒に入口からツル舎までパレードして、歓迎式が行われた。

3月30日 現地においてクィンズランド州ピーターセン首相は、「鹿児島向けのコアラは、連邦政府の承認を待っているところだ」と語り、承認が得られ次第、直ちに飛行機で送る手はずが整っていることを明らかにした。

4月1日 コアラの飼育係2人が発令になる。翌2日この2名は、クィンズランド州に出張、すでに現地で研修している獣医師と合流してローンパインコアラ園で実習に入る。約2週間の予定の研修が終るころには、鹿児島は輸出条件（オーストラリア）のすべてを満たすことになるので研修中の獣医師がコアラとともに帰国する可能性があった。

4月7日 オーストラリア連邦政府の野生動物保護局長オーピントン氏・同局の獣医師バーギン氏（コアラの専門家）・駐日オーストラリア大使館員ら一行4名が、連邦政府を代表してコアラ誘致希望のある日本の動物園の調査のため来鹿した。一行はマスコミとの接触を避け、工事中のコアラ舎やオーストラリア園の関連工事のため仮住まいしていたオーストラリア産の動物を視察したが、一行の好意的なコメントは全くきかれず連邦政府のコアラ輸出許可の慎重な対応ぶりがかがわれ、4月中旬のコアラ到着の情報に緊張していた鹿児島市にとって、一抹の不安があった。この調査団の報告が、連邦政府の決定を左右したものと思われる。調査団の来鹿をうすうす知っていた地元紙の記者は、当日動物公園の事務所において徹底して園長の動きをマークした。その為園長は調査に立会うことが出来ず帰宅したので、この調査団の動きはマスコミに知られずに終わっている。

4月8日 鹿児島市さつまライオンズクラブから、創立15周年を記念して、ユーカリの苗3,000本を贈られた。

4月9日 オーストラリアの名紙は、クィンズランド州のコアラ2匹（いずれもオス）が鹿児島市平川動物公園に贈られることになった。このコアラは18日出発して19日朝成田に着くと報じ、鹿児島にコアラが来るのはもはや時間の問題という雰囲気であった。翌10日に東京

入りするオーストラリア連邦政府のコアエン内務・環境相の正式発表が待たれた。

4月10日 東京都内幸町の日本プレスセンターに鹿児島・名古屋・東京などコアラ誘致に名乗りをあげている7つの自治体の動物園関係者が呼ばれ、約100人の報道陣が見守るなか、コアエン内務・環境相は次の4つの項目のステートメントを発表した。

(1) オーストラリアの専門家は、日本にはまだコアラを受け入れることのできる動物園がないと判断している。

(2) 今年の秋には、食物や恒久的な居住設備が完了し、日本のいくつかの動物園でコアラを受入れる体制が整うだろう。

(3) オーストラリア政府は、不必要な対抗意識を避けるため、日本のいくつかの動物園が同時にコアラを受け入れるようにすべきだと考えている。たぶん、鹿児島・名古屋・東京の動物園になるだろう。

(4) オーストラリア観光局の後援による「コアラ友の会」が結成されることを発表する。

同相は4月9日、オーストラリアの各新聞が、鹿児島へ寄贈するコアラ2匹が、19日に成田到着すると報じたことを否定した。19日の鹿児島入りを信じていた子供たちに「今回の決定については申訳ない。待ってもらえれば必ずいいものが来ます」とお詫びの発言もあった。秋ごろに鹿児島・名古屋・東京の3都市に同時にコアラが贈られることが決定して、誘致競争に終止符がうたれた。コアラ誘致の「一番乗り」は、日本での競争もさることながら、連邦政府を構成している各州とも「自分の州から日本に初めてのコアラを贈りたい」という先陣争いがシ烈であった。と当時の地元紙が報道している。

4月13日・16日 オーストラリアに派遣された獣医師2名、飼育係2名が研修を終って帰任した。

4月20日 「コアラ友の会」の設立準備のため、ルパージ・オーストラリア政府観光局日本地区代表ほか1名が来鹿。設立の趣旨・運営組織などについて説明があった。

5月8日 オランウータンに5年ぶりに、オスの赤ちゃんが生まれた。人工哺育であった「公平」と違って、こんどは担当が介添をして母乳を飲むようにしつけた。のちに「洋平」と名づけられた。

5月30日 アフリカ原地産のキリン3頭（オス1・メス2）が到着。血液更新のため、当園産のキリンと交換した。

6月1日 鹿児島県と賃貸借契約を締結して、西之表市の今年川原有林2.75ヘクタールを「ユーカリ植栽地」として借り受けた。（賃貸料・年40,500円）。ユーカリは霜や雪に弱く、コアラが好んで食べる幼葉の被害がひどいことから、冬期の飼料確保に不安があったので、無霜地帯の種子島にユーカリを植栽し万全を期することにした。

6月4日 駐日オーストラリア大使館・ドナルドソン参事官と当市のコアラ誘致推進会議のメンバーとの打合せが、市民文化ホールで開かれた。コアラの3園同時受け入れについての問題点とその時期、連邦政府の動物・植物の専門家の調査団が早期来鹿のことなど詳細にわたって協議が行われた。

6月26日にはドナルドソン参事官が政府観光局のルパージュ局長らと再度来鹿。「コアラ友の会」について協議した。

6月27日 こども動物園の中心部分で、キリン橋の付近にあって開園以来の懸案であった未買収地を競売によって購入した。価格 752,000円（面積 376平方メートル）

7月7日 オーストラリア政府・野生動物保護法に基づく申請書を提出した。コアラの輸出許可にあたっては、平川動物公園が、この法律に照して適切な動物園であるという承認を受ける必要があった。

7月22日 パース市長ら一行が両助役の案内で来園し、ユーカリの記念植樹を行う。

7月31日 コアラ誘致促進キャンペーンの一環として、地元紙が募集した「コアラの歌」発表会が開かれた。市の観光協会では、コアラをモデルにした、観光宣伝と観光客歓迎用のステッカーとワッペンを製作、発表した。

8月7日 オーストラリア連邦政府のオーピントン野生動物保護局長ほか4人が、コアラの受け入れ準備状況を視察した。一行は、完成の近いコアラ舎を視察、細かい提案をユーカリの生育状態などを見て回った。「8月末までにはコアラ来日の時期を明らかにする」とのコメントを発表した。



オーストラリア連邦政府調査団 コアラ舎視察

8月10日 東京・三田のオーストラリア大使館で、コアラ来日に関する打ち合わせが開かれて、鹿児島・名古屋・東京の3動物園長ほか各1名が出席した。オーストラリア側はニール・カリー駐日大使・オーピントン局長・ドナルドソン参事官・ルパーズ政府観光局長・ニューサウスウェルズ・クインズランドの各州政府代表のほか、広報担当官が加わった。協議はオーピントン局長が今回の3園の調査報告を行ない、各園の準備状況が満足すべきものであったことと、同局長の意見として10月中旬がコアラ来日が適当と思われる。また輸送にあたる航空機を調査したところ、10月10日シドニー発のカンタス航空がブリスベンに寄ることも可能である。コアラと共に来日を希望しているコーエン内務・環境相らの日程としても都合がよい。10月10日シドニー発の航空機でどうだろうか、各園の意見をききたいと発言があった。東京「コアラ舎は当日までに完成が無理であるので後日返事する。」名古屋「日程どおりでよい。」鹿児島「東京が無理であれば、期日を遅らせればよい、それでなければ仮獣舎を使うことになるのではないか。」とそれぞれ意見を述べた。オーピントン局長は、東京のコアラ舎が完成するのは到着後僅かな日数であるので、仮獣舎については特別な措置がとられるのではないかと発言。11日成田着をあくまでも推進したい様子であった。最終的に駐日オーストラリア大使から、東京がコアラ舎の工事完成を早めるよう努力し、オーピントン局長は東京のコアラ舎の建築工事の進捗よく状況を把握したうえで大臣に進言するよう指示があり、またコアラ来日のXデーは、8月末にコーエン内務・環境相が発表することになった。このほか、歓迎セレモニー・日本国内での輸送態勢・の話し合いと、コアラの一般公開は到着後4週間過ぎてから行うことを、鹿児島・名古屋・東京の3園で合意した。

8月17日 レバリー野生動物保護局次長とロバートソン園長が来園。コアラ来日前の最終的なチェックを行なった。コアラの止り木などについても細かい指示があった。また鹿児島

に贈られるコアラは、現地名で「クルーザー」(3才・5kg)と「スプリンター」(2才・3.5kg)の雄2匹であると発表した。

8月20日 コアラ舎が完成。屋外飼育舎は350平方メートルで、カラスなどの外敵を防ぐためのケージが天井に張られ、中にはユーカリを植えて、自然の状態で見られるようになっている。屋内飼育舎は600平方メートルで冷暖房完備の鉄筋コンクリート造り、夜行性館の展示（昼夜を逆転）ではなくて、昼間も天窓から自然に採光するようにした。とくに飼育舎の壁面に、オーストラリアの自然公園の風景が焼きつけられる形ではめられ、大自然の雰囲気を出している。

9月1日 コアラ友の会（会長・ルパーズ・オーストラリア政府観光局長）が、来日予定のコアラ6頭（鹿児島・名古屋・東京）の名前の全国募集を始めた。

9月11日 オーストラリアのコーエン内務・環境相がキャンベラで、「雄のコアラ6頭が10月24日オーストラリアを出発し、翌25日に日本に到着する」と正式発表。在日大使館を通じて連絡してきた同相の発表は、①鹿児島への2頭はクインズランド州から、他の4頭はニューサウスウェルズ州から送る。②コアラはオーストラリア国営のカンタス航空によりVIP（重要人物）待遇で日本に運ぶ。③後日、雌のコアラを送ることを検討している。という3点が骨子であった。全国的な名前のキャンペーンが反響を呼び、コアラ歓迎の歌が作られたことを評価している。

コアラの来日が正式に決定したことで、市内のデパートでは、さっそくコアラの来鹿を知らせる大看板をかけた。各商店・デパートの販売企画もつぎつぎと予定された。また市交通局では、コアラの写真入り下敷のついた乗車券を発売、民間のバスは車体やシートにコアラのデザインを入れたコアラバスを走らせるなど歓迎ムードがいきなり盛り上がった。

9月12日 動物公園ではコアラをモチーフにした新しいシンボルマークと、このシンボルマークをあしらったキャラクター（4種類）が決定した。

9月26日 東京において、コアラを受け入れる3園（鹿児島・名古屋・東京）で協議を行ない、そのあとオーストラリア大使館で大使をまじえて打合せを実施した。3園の協議では受け取りのためオーストラリアへの派遣人員・国内輸送・飼育体制・園内の管理体制・セレモニー・公開までの広報など各面にわたって詳細な協議をした。この協議で特に問題になったのは、オーストラリア側が指示していた。コアラは輸送箱を布で覆ったままで成田から各動物園にむかい、ただちに動物舎に入れ、1ヶ月後の一般公開ではじめて姿をみせることであった。しかし報道関係の人たちは、どこかで見せないと納得しないだろうから、園に着いて車から出してコアラ舎に入れるときが適当ではないかと提案することにした。大使もこの案に賛成して連邦政府に伝えてもらった結果、OKが出された。

名古屋・東京は既に週1回動物の休養のため休園日を設けていたが、さらにコアラの健康保持のため、コアラ館の休館日を毎週1回もうけたいと提案があり、鹿児島はサービスエリアの人口がこの2園とは桁が違うので動物のストレスもそれ程にないと思う、従って休養日は考えていないと発言したが、2園の要請が強く、毎週金曜日は「コアラの休息日」とすることで各園が合意した。

10月4日と11日の両日 ユーカリの葉(10種類)をローンパインコアラ園に送る。試食させ

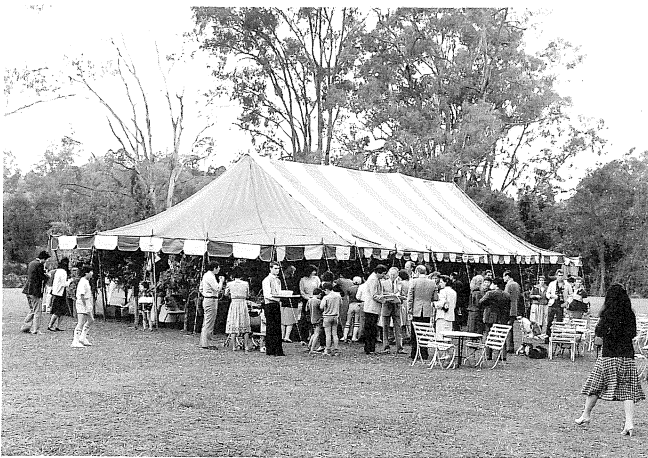
たところ、鹿児島に来るコアラは2匹ともよく食べたと報告を受ける。

10月13日 日高助役は鹿児島鉄道管理局長を訪ねて「国鉄指宿枕崎線の五位野駅と平川駅の間に新駅を設置して欲しい」と要望書を手渡している。それまで新駅の設置について打診はしていたが、文書による正式な要望は初めてであった。(昭和60年夏をメドにしていたが、コアラ来園時は、臨時駐車場からのバスのピストン輸送で入園客をさばくことができ、この駅は実現をみていない)

10月16日 コアラの来日予定の25日のスケジュールについて記者発表。鹿児島・名古屋・東京の3園と同時公開の日は、11月20日と決定したことも同時に発表された。コアラの到着した日のスケジュールでは、市役所内のコアラ会議のなかで、成田から羽田までの輸送手段をどうするかについて論議がわかれた。車で運んだ場合は、交通渋滞にあえば羽田―鹿児島間の定期便に間に合わず、ヘリコプターでは騒音でコアラにストレスがたまる心配もあった。結局、鹿児島の歓迎セレモニーに確実に間に合うため、成田から直行する全日空機をチャーターすることに決まる。

10月17日 コアラを迎えるため、日高助役・川畑園長ら4人がオーストラリアへ出発。名古屋・東京も同じ日航機でシドニー空港へむかった。

10月19日 シドニー市に近いゴスフォード市の選挙事務所にコーエン内務・環境相(オーピントン局長も同席)を、名古屋・東京の関係者と一緒に表敬訪問した。同相は、メスのコアラを贈る時期について「私は来年(60年)6月ごろ、筑波博を見に行くつもりだが、できればその時にメスを連れていきたい」と6月を示唆した。これまではオス2匹が慣れた60年秋ごろといわれてきたので、少し早まる可能性が出てきたと期待がもたれた。



コアラ引き渡し式(ローンバインコアラ園)

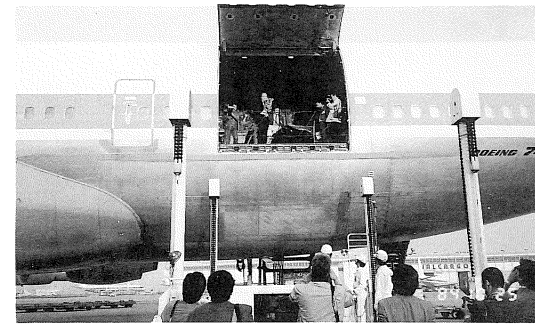
コアラ引き渡し式(ローンバインコアラ園) 機首の両側に日本とオーストラリアの国旗をもったコアラの絵が描かれ、日本語で「はじめまして」と書いてあった。機内では客室の3分の1を区切った特別室で、幅75センチ、高さ92センチ、奥行99センチのケージに1匹ずつ入れられ、外から布で完全に覆われていた。飛行の途中、許可をもらってコアラの様子を観察したが、声も聞こえぬ位の騒音のなかで、コアラは落着いていて、コアラ舎の防音などに細心の設計をしていたわれわれにとって、ちょっと意外であった。各園のコアラに

10月21日 コアラの引き渡し式が、ローンバイン・コアラ園で開かれ、ピーターセン州首相が日高助役らにコアラを手渡した。式には現地にいる日本人家族も多数参加し、翌日の現地紙で大きく報道された。

10月24日 鹿児島・名古屋・東京の計6匹のコアラは、シドニーから4匹、途中ブリスベンから2匹(鹿児島の分)が積み込まれた。輸送にあたった「コアラ・エ

はそれぞれ、オーストラリアからコアラ専門の獣医が付添っていて、鹿児島は、スチーブ・ブラウン獣医で、同獣医はしばらく滞在して指導した。

10月25日 「コアラ・エクスプレス」は午前6時すぎ到着。オーストラリア連邦政府主催の引渡し式があり、外務省・北川外務次官、連邦政府のウォールッシュ資源エネルギー相やコアラと同時にやって来たニューサウスウェルズ州政府のクリアリー観光相、クインズランド州のピーターセン首相、サザランド・シドニー市長らが出席した。この時、各動物園に着くまでは公開しない約束であったが、機内の貨物室のドアが開くと、ローンバインコアラ園のロバートソン園長がコアラを抱いて現れ、わが国で初めて姿を見せたコアラとなった。



ロバートソン園長に抱かれたコアラ 成田空港

これをみて報道陣がコアラの方へワッと行ってしまったので、セレモニーがいささか生彩を欠き、関係者を慌てさせた。このあと全日空のチャーター便に一行と報道各社が乗り込んで鹿児島に向う。機内でもピーターセン首相がコアラを抱いてサービスした。空港では赤崎助役ら約100人が出迎え、市消防局音楽隊の演奏の中コアラがおろされた。コアラは東京から回送されてきた特別輸送車に收容さ

れ、ピーターセン道相一行とともにパトカー2台に守られて平川に向かった。動物公園では保育園児ら約400人がコアラの旗をふって一行を出迎え、福平小プラスバンド部がオーストラリア国歌を吹奏して歓迎した。後続のコアラの輸送車が半分たっても到着せず気を揉んだが、長旅に疲れたコアラが、車酔いを起したので、途中で輸送箱から出して外気を吸わせ、スローで運行してきたという一幕もあって、無事の到着をみてホッとした。予定の時刻をオーバーして、新設のコアラ舎まで、ピーターセン首相から、赤崎・日高両助役にコアラがそれぞれ引き渡された。ロバートソン園長とブラウン獣医がコアラを抱いて園児たちに近づき披露したので、予定にない対面に大歓声があがった。

オーストラリア連邦政府の指示もあって、輸送ケージを覆ったまゝで、各園のコアラ舎へ入れる約束であった。ロバートソン園長の予定外のサービスが連邦政府を刺戟して、メスのコアラの来日に影響を与えるのではと案じたが杞憂に終わっている。

ピーターセン首相の一行は、平川動物公園から鹿大病院に向い、入院中の山之口市長を表敬訪問、同市長にコアラ贈呈の正式目録を手渡した。



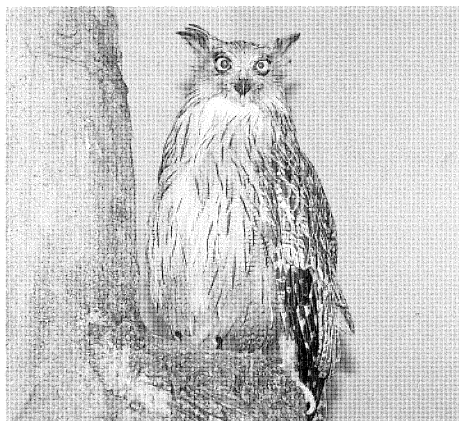
コアラの引き渡し式(平川動物公園)

夜は城山観光ホテルで開かれた鹿児島市主催の「感謝の夕べ」に臨んだ。コアラ誘致に関係した約260人が出席。オーストラリアのテレビ局が同行取材したコアラの鹿児島入りの模様は、姉妹都市パース市とクインズランド州に衛星中継された。

— 1991.11.30 —

(元 平川動物公園長)

動物公園の顔



◀シマフクロウ

Blakiston's Fish-Owl

フクロウ目 フクロウ科

Ketupa blakistoni

北海道・サハリン・ウスリー地方南部・国後島・中国東北部に分布。

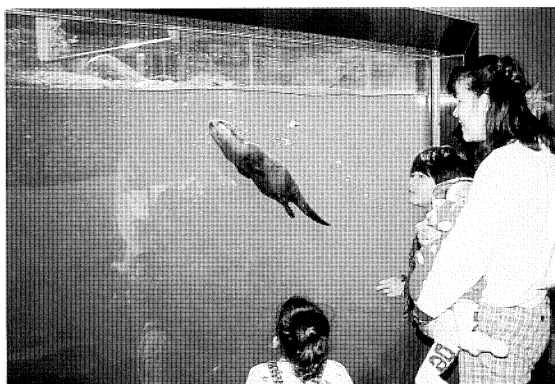
全長71cm、森林中にすむ。時として人家附近の森林帯に飛来することもある。

営巣は天然に出来た大きな樹洞内で行う。産卵は4月頃、純白の卵を1個うむ。

営巣場所は湖畔・河川などの水辺に近いところを好む。

魚類が主食で、哺乳類・鳥類・甲殻類（ザリガニなど）も捕食する。

動物公園施設案内



▲ペンギン・カワウソ舎

ふれあいランドのゾーンにあります。平成3年3月31日オープンしました。

ペンギン・カワウソを屋外展示し、水中で泳ぐ様子が観察できます。観覧通路から地下に階段でおりるようになっています。池は、オゾン発生装置による水の浄化施設があって、水の透明度が保たれているので泳ぐ姿を鮮明に見られます。

平川動物公園入園者の推移

(昭47.10.14~平3.3.31)

年度	有料(人)	無料(人)	合計(人)
47(10/14)	373,485	149,394	522,879
48	551,402	220,560	771,962
49	438,977	175,590	614,567
50	409,032	163,612	572,644
51	380,992	152,396	533,388
52	359,960	143,953	503,913
53	395,929	145,955	541,884
54	380,256	139,948	520,204
55	360,917	137,916	498,833
56	373,841	151,098	524,939
57	369,866	152,315	522,181
58	355,668	138,210	493,878
59	628,590	196,733	825,323
60	701,154	205,959	907,113
61	547,745	175,335	723,080
62	502,917	164,594	667,511
63	477,324	171,052	648,376
平元	439,335	160,737	600,072
2	439,105	161,013	600,118
合計	8,486,495	3,106,370	11,592,865

表紙題字

鹿児島市長 赤崎義則

ひらかわ No 30 平成3年12月1日発行 第30号

発行所 (財)鹿児島市動物公園協会

〒891-01 鹿児島市平川町5669-1 ☎0992(61)2326-8

発行者 鹿児島市動物公園協会理事長 赤崎義則

編集者 鹿児島市平川動物公園長 丹下克郎

撮影：酒匂 猛